

## 郷土館のあらまし

今も当時の石垣が残る旗本千村氏の上屋敷跡に建ち、本館のほかに、作陶活動のできる陶芸苑があります。

収蔵資料は、可児市の自然から歴史・民俗と幅広く、「可児の地質時代から現代まで」をテーマに展示をおこなっています。特に可児市では、久々利大平・大萱の古窯跡群を擁していることから、志野・織部・黄瀬戸といった美濃桃山陶の優品を常時展示しています。



外観



館内



青織部梅樹絵台付向付

## 陶芸苑



電動ロクロ8台を備えた作陶室と茶室などがあり、年間を通して陶芸講座などを開催しています。



## 動植物の化石



カニサイの化石



フウの葉の化石

可児市周辺に堆積する新生代新第三紀中新世(約2,000万年前)の中村層や平牧層からは、サイやウマ、ゾウ、バクなどのほ乳動物の化石が多数発見されています。

## 考古資料

木曾川沿いの平坦地には、北裏遺跡や川合宮之脇遺跡、長塚古墳など多くの遺跡が立地し、発掘調査が行われてきました。また、久々利地区からは銅鐸が発見されています。



長塚古墳出土品



銅鐸

## 歴史資料

市内には平安時代の諸仏が伝わり、古くから人と物資の交流が盛んであったことを物語っています。江戸時代には、50余りの村と複数の領主が存在し、中でも久々利の村と複数の領主が存在し、中でも久々利に屋敷を構えた千村氏は、旗本であり尾張藩家臣という二つの立場を持っていました。



△岡田将監書状(部分) 大日如来坐像(寄託)⇒



## 美濃桃山陶



黄瀬戸梅樹絵鉢



志野筆絵向付



青織部土筆絵皿

久々利大平・大萱には、桃山時代から江戸時代にかけて多くの窯が築かれ、黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった焼き物が生産されていたことで、全国的に知られています。

## 戦国山城ミュージアム

明治18年(1885)に竣工した、懸け造りの三階建てという珍しい形態の小学校校舎を平成6年(1994)に解体修理し、資料館として開館。南面からは二階造り、北面からは総三階という学校建築は極めて稀で、建物そのものが貴重です。その後、平成29年の耐震改修工事を経て、平成30年6月末からは戦国山城ミュージアムとして、兼山地区に残る 国史跡 美濃金山城跡と城主森氏をはじめ、市内各地の山城を紹介しています。



## 荒川豊蔵資料館

荒川豊蔵は、美濃桃山陶を代表する志野・瀬戸黒で国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、美濃陶芸発展の礎を築きました。



外観

昭和59年(1984)、豊蔵は自作品やコレクションを公開し、見識を深めていただきたいという思いから資料館を開設。外観は蔵をイメージした白壁造り、窓格子は萱をデザインしています。敷地内には、牟田洞古窯跡、豊蔵が使用した窯(いずれも非公開)などがあり、このうち居宅、仕事を整備・公開しています。

## 川合考古資料館(川合地区センター)



館内

木曾川と飛騨川の合流点に位置する川合地区にあり、平成2~3年(1990~91)に実施された発掘調査の出土品を展示しています。

屋外には、東海地方で最大級の方墳である次郎兵衛塚1号墳が復元整備されています。



鳥つまみ蓋付須恵器